

JAPAN HOLINESS ASSOCIATION

# 聖化

日本聖化交友会機関誌 '86.5.20

No. 1



日本聖化交友会発会にあたって

## 聖化の旗を高く掲げよ

会長 本田弘慈

今回、日本に、「聖化」の恩寵を信じる者が一つとなり、聖化交友会を結成しましたことは、主の大きい御憐みであり、また日本の教会に対する大きな祝福であると信じる次第でございます。

昨年の十二月二日、本会は、お茶の水にて、芽度く誕生しました。本会の結成は、今後の日本の歴史に、また教会の活動に大きな貢献をなすものとなることでしょう。

今年の二月二七日、惜しくも副会長の長島幸雄師が召天されました。師が召される直前私の手を堅く握りながら、「聖化交友会が誕生して、僕の心の重荷はおりたよ」と語られました。本会の誕生は、多くの聖徒の長い祈りであり、神への懇願でありました。

日本に、神の恩寵による聖化の恵みの祝福が宣証せられて既に八十年、

東は中田、笹尾の両師により、西はバックストン、竹田、河辺の三師によって高揚され、この信仰は個人の中に、また教会の中に流れ、今日、このようにして結束し、結合されて前進をはじめました。やがて、これは日本の霊界を浄化し教会を聖化し、個々の信徒を強め、更に盛んなる宣教への躍進となることでしょう。

私たちは、ここに深い謙遜と敬虔さを以って、この聖化の恩寵を明確に自分自身のものとして経験し、また生活と生涯に於いて立証することが必要でしょう。それと共に、本会に於いて、更に充実した靈交研磨の時を持たれ、団結を拡大し強固にしつつ、この低迷せるキリスト教会の中に、混濁せる世界の世相の中に、「聖化」の恩寵を高揚すべきであると信じる者であります。

私たちは今こそ、心を合せ、力を

合せて熱く祈り、熱く相愛し、「聖化」の旗、ホーリネスの光を、高く掲げるべきではないでしょうか。



# 日本聖化交友会

## ● 経過報告 ●

1 かねてより、一月十八日に開催、そのおりに二十  
ホーリネスの宣 二名の有志が集り、次の事項を確認  
証に関心のある した。  
有志が、ホーリ (1) 全体の意向として、聖化のた  
ネスについて考 めの交わりの会の必要。  
える会として考 (2) 名称について、日本聖化交友  
合を持ったのが、 会(仮称)の了承。  
一九八四年十月 (3) 発会式は一九八五年の秋を予  
十七日であり、 定し、世話人として本田弘慈、村上  
これが本会の発 宣道、船田武雄、藤本栄造、藤波勝  
足に関わる最初 正、岸田馨の六氏が推薦された。

の集いである。 その後の世話人会で、次の各分担  
続いて第二回目 を決めた。  
の会合をホーリ 座長 本田弘慈、会計 村上宣道、  
ネス懇談会とし 藤波勝正、庶務 藤本栄造、岸田馨

て、一九八五年 2 関西でも、同年二月十五日にホ

りネス懇談会が開かれ、本田弘慈  
氏を中心に二十二名の有志が集り、  
次項を確認した。

(1) 聖化の交わりの必要。  
(2) 第二の転機の恵みを主張する  
立場の交わりであること。  
(3) 福音連盟との関係については、  
互いに競合しないものであること。

以上、二十一名の個人参加の意志表  
明があり、一名が保留した。  
3 関東では、第三回目の会合とし  
て、四月二十二日、日本聖化交友会  
(仮称)による全体会議が開かれ、  
二十四名の有志が参加し、次の事項  
を確認した。

(1) 本会の目的は、聖化の宣証と

め、証人となるように歩んで行こう  
ではありませんか。

め、証人となるように歩んで行こう  
ではありませんか。

め、証人となるように歩んで行こう  
ではありませんか。

め、証人となるように歩んで行こう  
ではありませんか。

め、証人となるように歩んで行こう  
ではありませんか。

め、証人となるように歩んで行こう  
ではありませんか。

め、証人となるように歩んで行こう  
ではありませんか。

め、証人となるように歩んで行こう  
ではありませんか。

め、証人となるように歩んで行こう  
ではありませんか。

## から挨拶のご式会発

ひたすら

教界の祝福のために

本田 弘 慈

このたび西と東で、聖化を主題と  
し、これを告白する者たちが交友し、  
発会できることを心から感謝してい  
ます。このことは必ずや日本の教界  
にとって大いなる祝福となることを  
信じて疑いません。

これには、何らの政治的意図はあ  
りません。ただ聖潔の宣証あるのみ  
でございます。深くあることこそ、  
教会の最終目標だからです。  
集まりは小さくても、やがては、か  
ち渡りすべからざるところまで神は  
祝福を溢れさせて下さることを信じ  
ています。  
この使信を神から委ねられた者で  
あるとの確信に立ち、私たちはきよ

時代の要請にこたえて

長 島 幸 雄

日本聖化交友会は福音の世界を狭  
ばめるものではないと思っております。  
私たちはキリスト者の経るべき転機  
について信仰を同じくする者であり

(1) 規則については、(別紙参照)  
逐条審議により、部分的な修正を加  
えた上、施行年月日を一九八五年十  
二月二日とし、これを承認した。  
(2) 評議員の選任。  
評議員は、発会式出席者全員と、  
関西にて既に参加表明をしておられ  
る方に加え、以上の諸氏の就任を了  
承した。

# 聖化によるリバイバルに向かって

ます。このトンネルを通過してこそ、豁然と視野が開かれるのです。

最近、隅田川に魚が戻って来たこと聞いています。日本聖化交友会の誕生も、福音の世界の拡大、浄化、起爆剤としての原動力を提供することと信じます。このような交わりはやや遅きに失した感もありますが、やはり時宜に適したものだと思っています。

戦後、人々は教会に期待して集ったが、それがはずれて去って行ったと自覚されます。だから品性のきよめを宣証するこの福音こそ、今の日本が切に求めてやまないものと私は信じています。詩六五・九一—三。

## 世界的な規模を目指して

朝比奈 寛

日本の教界に大きな足跡を印すと思われる記念すべきこの日に、お招きを頂き感謝しています。

戦前にも聖化連盟というものがありましたが、今回のようなものは日本の歴史においてははじめてではないでしょうか。

全ききよめの交わりが、世界の友へと翼を拡げて行くことよって、お互いの霊的視野はひろがるであります。世界的規模におけるホー

リネスのリバイバルを折って止みません。

## 大手を振って宣証へ

小林 和夫

この交友会に加わっておられる方々の顔ぶれを拝見して、励ましを受けております。

きよめには一つの規程が必要ではないかと思えます。このことについて私は数年前からある危機感を抱いています。

ソウルのある神学大学では、アルミニアンということばは誤解があるので、ウエスレアンという名で募集していたそうですが、このように入って来た学生たちにより、学園暴動が起ったというのです。罪からの全き救いと聖霊による内住を、大手をふって日本に宣証して行きたいものです。

## 現代との

### 生きた関連性を

瀬尾 要造

ウエスレーは、一七九〇年に、この全ききよめは、神がメソジストと呼ばれる人々に委ねられた偉大な教理であると書きました。二ヶ月後、

つまり死の教週間前、この群れの指導者たちが、もし、これに反したことを述べているなら、身を引くべきであるとも留めています。

米國メソジスト教会の歴史を見て、何度か、これから遠脱しては復帰しています。

私たちもウエスレーのことばを警告として聞くべきではないでしょうか。きよめの教理がどのように現代と関連性を持つか、実際のにとどいうに適用されるべきか大いに学ぶべきことがあると存じます。

## 世界の

### リバイバルにむけて

小平 照夫

危機は人々をして根源的なものを求めることを余儀なくさせると言われます。世界を覆う道德の低落と混乱、深い精神的混迷、このような時こそ、私たちはこのきよめの恵みを学び、宣証し、戦いとしてゆかねばならないと存じます。一教団、一個人の問題ではなく、ゆずり受けたこの信仰をもって、世界のリバイバルに貢献したいと願うものです。

(文責 飯塚)

(3) 第一期役員として次の諸氏が選任された。

会長 本田弘慈。副会長 長島幸雄、畑野基、朝比奈寛、村上宣道。書記 岸田馨、藤本栄造。会計 藤波勝正、飯塚俊雄。役員 小平照夫、葛田真実、峯野龍弘、小笠原孝、小林和夫、会計監査 芳賀正、北村武雄

なお、会長により顧問の必要と推薦があり、中原、瀬尾、森山、大橋山崎、谷中、シエルホーンの諸氏が選任された。

(4) 会費については、年間会費三千円とすることを了承し、予算の作成とともに役員会に委託することになった。

5 第一回役員会が本年二月に開催され、実務的な業務を行なうため、総務委員会と機関誌編集委員会が設けられた。

(総務委員) 藤本、飯塚、藤波、岸田、村上、峯野、小林、小笠原。(編集委員) 野田、葛田(公)、本間、松木、秋山、世良田。

以上。

# 「長島幸雄先生のこゝと」



朝比奈 寛

過る二月二十七日、午後四時、

日本聖化交友会副会長（J・ウエスレーに学ぶ会・会長）の長島幸雄先生が天に凱旋されました。昨年十二月二日に開かれた「日本聖化交友会」の発会の時にはあんなに元気であられたのに、と思われられておることではありません。

筆者が最初に長島先生にお会いしたのは、本田弘慈先生が垣屋聖書学舎を卒業される時で、丸坊主の神学生でいらつしやる頃でした。その後、何回か色々な機会に先生を御見受けしておりましたが、80・ピリー・グラハム国際大会が開かれました時、先生が全国実行委員長でしたので、先生とは共に奉仕し、旅行し、食事をともにしながら、色々とお話を承ることが出来、ピリー・グラハム師やレイトン・フォード師らとも何回か食事をしながら日本の教界の事を話し合う機会が与えられたのでした。

## 日本聖化交友会 大会



日時・1986年11月13・14日(木) (金)

会場・淀橋教会 (予定)

■セミナー(昼)ホーリネスの説教

■聖会(夜)聖化の恵み

特別講師

アズベリー大学学長

ジョン・N・オスウォルト博士

オスウォルト博士は永年、アズベリー神学校の教授として活躍され、三年にわたリアズベリー大学の学長の要職にありましたが、本年9月より、トリニティ神学校の旧約学の責任をとられることになる少壮の碩学であり、また、説教者としても著名な器であります。

を持ち、共に折り、共に学び、協力することが出来るようになれば幸いではないかと語りあったのであります。

一九八四年十一月十九日に

特に一九八一年に「J・ウエスレーに学ぶ会」の結成前後からは、度々御会いして、日本の教界の動き、特に「きよめ派」の諸教団、諸教会について色々な話をうかがうことが出来ました。

特に先生は「日本のきよめ派」のあり方について、重荷を感じておられたようで、「きよめ派」が何らかの形において、交わり

「J・ウエスレーに学ぶ会」の聖会の講師として本田弘慈先生が来阪された時、夜の歓迎夕食時の語らいの中で、日本のきよめ派の交わりの為に、何らかの「会」がつくられる必要があり、その為に本田先生に関東にあつて骨を折って頂きたいということが訴えられ、本田先生も努力を約束されたのでした。そして昨年「日本聖化交友会」の発足

を見たのであります。その直後、長島先生を天に送らねばならなくなった事は非常に残念な事でありました。

然し一切を最善になさる主を仰ぎ、長島先生の信仰と重荷を分担し、受け継いで前進しなければならぬと思います。

長島先生はまさに「日本聖化交友会」の発足の為に、バプテスマのヨハネの役割りを担われたように感じます。

先駆者としての使命を果たされた先生を偲びつつ。

後記

主の導きのもとに発足した日本聖化交友会の活動の一つとして、ここに機関誌第一号をお届けいたします。

第一号でありますので報告が中心となりましたが、追ってメッセージや証し、研究の発表や本の紹介なども登場して来ることと致し。将来は、誌と呼ぶにふさわしいものになるように願っています。

今のところ年三回くらいの発行が予定されていますが、どうぞお祈りくださり、ご意見やご希望をお寄せいただきたいと思います。

なお、編集委員は次の諸氏であります。

- 松本 祐三
- 萬田 公義
- 本間 義信
- 秋山 恵一
- 世良田 湧侍
- 野田 秀

(野田)